

令和7年度 第2回 学校運営協議会 議事録（要旨）

- 1 日 時 令和7年12月23日（火） 14：00～16：00
2 場 所 校長室
3 出席者 館山会長、野崎委員、藤本委員、谷口委員、高瀬委員、村田委員
 檜崎校長、太田教頭、櫻間事務長、花野首席、新田首席
 その他教員 1名

4 次 第

- (1) 開会
- (2) 学校見学
- (3) 令和7年度学校経営計画及び学校評価の進捗状況について（協議事項）
- (4) 学校教育自己診断アンケート（報告事項）
- (5) 閉会

5 【校長あいさつ】

生徒が将来、「就労を通じて社会参加し、自立して豊かな生活を獲得すること」を目標としている。職業学科の授業のみならず、英語、数学、理科、社会といった各教科の授業がいかに生徒のキャリア（将来の生き方）に結びつくかを重視し、教員が教材を工夫している。

【会長あいさつ】

3年間の学びの先にある「就労は決してゴールではない」という観点が示された。卒業後も長く続く人生において、学校での集団生活や部活動を通じて学んだ社会性や協調性を糧に、豊かな人生を歩み続けることが眞の目的である。

（協議・意見交換）

【協議事項：令和7年度学校経営計画及び学校評価の進捗状況】

- ・高い就労率と定着率：
 - 就労率： ほぼ9割の生徒が、自らの希望する進路への就労を果たしている。
 - 定着率： 8期生の卒業生の職場定着率は95%（離職・再就職は1名ずつ）と、高い水準を維持している。
- ・生徒の意欲と学校の活性化：
「就労して頑張っていこう」という強い意志を持って本校を志願する生徒が集まることで、学校運営に好循環が生まれている。
- ・教育課程の段階的な成果： 2年生で清掃、販売、物流など複数の現場実習を経験し、体力や集中力の面から自身の適性を模索する。この1・2年時の蓄積があるからこそ、3年生で「就労を前提とした目標」を定めて突き進むことができている。

【質問・意見等】

（委員）

- ・共生推進教室の志願動向はどうなっているか

(校長)

- ・共生推進教室の生徒が一時期、出願者が0名になる状況もあったが、現在は回復傾向にあり、全学年で欠員がなくなる見込みである。

【報告事項：学校教育自己診断アンケート考察】

- ・11月に生徒、保護者、教員それぞれに実施し、考察をまとめた。

【質問・意見等】

(委員)

- ・アンケートで2年生の評価が一時的に下がる傾向があるが、どのように考えられるか。

(校長)

- ・実習を通じた「迷い」が多い時期であると分析している。この迷いを経て3年生で「吹っ切れる」ことが、安定した進路選択につながっている。

(委員)

- ・多様な背景への対応をする際、外部機関（SSW、SC）だけでなく保護者にもぜひ情報共有をさせて欲しい。

(校長)

- ・当然、保護者もその輪に入っている。発達障害や知的障害の特性に加え、ヤングケアラーや外国にルーツを持つ生徒など、生徒の抱える背景が複雑化・多様化している現状がある。これに対し、外部機関や家庭と連携し、「三方よし（生徒・家庭・教職員）」の精神で支援を継続していく方針である。